



今年ついに「Road to Wimbledon」が日本でも開催されることになりました。この大会はその名の通り、ウインブルドンへつながる道です。

テニス聖地オールイングランド・ローンテニスクラブ(AELTC)では2009年から毎年8月(今年は8月13~18日)に14歳以下のジュニア大会を開催しています。

2010年からはイギリスの主要都市でも予選会を開催するようになりましたが、その後、イギリス国内予選に加えて、2014年からインド、2016年から中国、2017年から香港でも予選会が実施されるようになりました。

しかし、この予選会は容易に招致できる大会ではありません。予選大会の対象国は、歴史的にイギリスとの関係が深いこと、またイギリス大会の協賛社の海外拠点のある国が対象であり、言うまでもなく、コートサーフェスはクオリティーの高い天然芝でなければいけません。

また、8月のイギリスの決勝大会をゴールに、順を追ってアジアで予選大会が開催されるため、開催日程は開催国の諸事情が配慮さ

佐賀からウインブルドンへ!
(写真 © GettyImages)

Road to Wimbledon in Japan



英し、芝のメンテナンスを研究するなど、両クラブの親交は続いているのです。

佐賀で開催となる日本予選は4月23~28日。決勝大会と同様に、日本予選も14歳以下が対象となります。出場申し込み者から男女16選手を大会実行委員会が選考し、ラウンドロビン予選と決勝トーナメントを行い、男女2名ずつの代表選手が決定することになります。

ただし、予選会への出場選手は8月13~18日にイギリスで開催される「Road to Wimbledon FINAL」に出場可能なジュニア選手というのが条件で、渡英期間中に開催される全国中学生テニス選手権、全日本ジュニア選手権には残念ながら出場できないこととなります。それでも14歳でテニスの聖地ウインブルドンから招待を受け、諸外国の有望選手と試合する機会は何物にも代えがたい大きな経験になることは違いありません。

数少ない日本の天然芝でプレーできるチャンスは非常に貴重です。また、試合だけでなく、諸外国の予選会では練習会も行われてきています。指導者の顔ぶれも、イギリスのティム・ヘンマンや中国のリー・ナなど豪華そのものです。

Road to Wimbledonにひとりでも多くの夢抱くジュニアからのエントリーに期待し、ウインブルドンを目指してほしいと思います(申し込み締め切りは3月1日、グラスコート佐賀テニスクラブまで)。

親善試合が行われた際、AELTCメンバーが「コートもストロベリーも、イギリスより佐賀の方がいいじゃないか」と言ったほど、グラスコート佐賀テニスクラブの天然芝のクオリティーは折り紙つき。また、佐賀からも毎年渡

かわていなおひろ◎1970年4月18日生まれ、兵庫県出身。国際レフェリーの最高資格「ゴールドバッジ」として、20年間に渡り、国際大会スーパーバイザーとして活躍。現在、ITF(国際テニス連盟)オリンピック委員会の委員、またATF(アジアテニス連盟)常務理事として各国のテニス発展に尽力。国内ではJTA(日本テニス協会)常務理事兼コミュニケーション・マネージャーとして選手や大会の相談役も務め、2009年から楽天ジャパン・オープンのトーナメントディレクターに就任した



お正月にAさんとBさんがシングルの3セットマッチを行いました。Aさんのサーブで始まり、お互いにサーブスキープを繰り返して第1セットはタイブレイクに突入しました。タイブレイクはポイントアードで圧倒したAさんが奪いました。

●Aさんの主張
「タイブレイクは7-0で終わった。次の8ポイント目は自分のサーブの順番だったから、その続きで自分からのサーブになるはずだ」

●Bさんの主張
「タイブレイクを第13ゲームと考えれば、順番的にAさんのサーブゲームに該当となる。だから第14ゲームにあたる第2セット第1ゲームは、自分からのサーブになるはずだ」

A Bさんの主張が正しい タイブレイクも1ゲーム

普段3セットマッチで試合を行わないと、うっかり忘れてしまうルールのひとつです。結論から言うとBさんの主張が正しく、タイブレイクは第13ゲームであり、ひとつのゲームと同様に考えるのです。ゆえにタイブレイクの最終ポイントで誰がサーブを打ったかというAさんの主張は関係ないのです。

実際、JTAテニスルールブックにある第1部のテニスルール規則5には、次のように明確に記載されています。

「ゲーム中のスコア」(b)で、「タイブレイク・ゲーム第1ポイントのサーブは、次のセット第1ゲームのレシーバーとなる。」もし、タイブレイクの最